招聘研究員

氏　　名	黄　亜欣（HUANG Yaxin）
所属機関等	華東師範大学　中国非物質文化遺産保護研究中心
受入期間	2016年9月20日～2016年10月10日
指導教員	佐野　賢治（チューター：石　岩岩）
研究課題	日本の伝統生活様式の現在における伝承と変遷

山崎・北野神社の鎌倉神楽

黄　亜欣

Ⅰ　山崎・北野神社の概況

大船駅から南西方向約1.5キロメートル先にある山は、山の神としての名があり、山崎天神と呼ばれている。北野神社はこの山の上にある小さな神社で、ふもとから山頂の北野神社まで200段以上の石段を登らなければならない。この山の鎮守神が山崎天神であるが、神社では菅原道真と牛頭天王を祭神としており、祭祀に際して鎌倉神楽を上演［奉納］する。

Ⅱ　鎌倉神楽の由来

鎌倉神楽は800年以上の歴史があり、鎌倉を中心に、藤沢、横須賀、三浦、葉山、横浜南部の神社はみなこの神楽と繋がりがある。普通の神楽とは違い、鎌倉神楽は一般的な民間神楽ではなく、神職による神楽として神社の神職が執り行わなければならない。通常の神楽と比較してみても、鎌倉神楽はストーリー性に富むだけでなく、祭祀で行われる禊ぎを通じて祭祀に参加する観衆［参列者］が心を清めることに重きを置いている点が特徴的といえる。

比較的完全な形の鎌倉神楽は一般的に八座（八つの内容）とされ、現在八座の神楽は減りつつあり、十二座のものが多いという。

◉写真１　鎌倉北野神社神楽の上演

Ⅲ　山崎・北野神社の鎌倉神楽の上演の様子

今回記録したのは2016年9月25日に行われた山崎・北野神社の鎌倉神楽の上演である。鶴岡八幡宮などの大きな神社の鎌倉神楽と比べると、山崎・北野神社の神楽は規模は小さめだが、神楽の内容・流れが比較的完全な形で保存されている。現在、山崎・北野神社の鎌倉神楽は山崎保存会によって定期的に上演されている。

神社の境内に四角く囲われた一角があり、ここが神楽が主に行われる場所である。上演場所［斎場、山］は赤・黄・白・緑・青の五色の紙で作られたリボン状の装飾品［紙垂］で囲われており、上演場所が山の形状に似ていることからこれは「山飾り」と呼ばれる。上演場所の真ん中には供物台［案、あるいは三方］があり、供物台の上には酒瓶［御神酒］二本、餅二皿、米粒少々、大きな竹の棹一本、小さな竹の棹四本、弓一張、矢五本、竹の葉の箒一本、鈴一個、扇一枚、剣一本、しゃもじ一本、装束二着、天狗の面一面、山の神の面一面が載せられている。

◉写真２　神楽の上演　第一座：初能

◉写真３　神楽の上演　第二座：御祓

◉写真４　神楽の上演　第六座：笹の舞

上演場所の片側には神楽の伴奏［囃子］を担う楽隊がおり、楽器は太鼓［大胴］一張、小太鼓［締太鼓］二張、笛三本、銅鑼一丁で、奏者は青少年が多い。楽隊の側には祭祀で使う湯を沸かす役目の人がいる。

Ⅳ　山崎・北野神社の鎌倉神楽の上演の流れ

神楽の上演は前段と後段それぞれ四つの内容［座］に分かれており、前半は邪気を祓い神をお招きする内容が主であり、後半は民に福をもたらす内容が主である。

神楽を始める前に、四人の神職が座り、所定の礼拝を行う。まず手に札［笏］を持ち、神前で一礼二拍手し、再び札を持ち一礼二拍手、更にもう一度札を持ち一礼する。一人の神職が出てきて主宰［斎主］席に座り神楽を司る。上演中は、通常一人〜二人の神職が神楽を行い、残りの神職二、三人で伴奏を行い、楽器は太鼓・小太鼓・笛が使われる。

前段：

第一座：初能［はのう］。一人の神職［宮司］が供物台の前で拝跪（通常の作法はまず一礼してから二拍手、その後再度一礼二拍手、最後に一礼）する。上演が始まると、神職は扇を取り出し、供物台から米を一つかみし扇にのせる。この時、残りの三人の神職はそれぞれ小太鼓、太鼓、笛で伴奏する。前で上演している神職は右手で鈴を鳴らし、左手に扇を持って舞い、最後に扇の上の米粒を東・西・南・北の四方向に播く［散供］。この米粒は神のご加護を意味するとされ、神職が米を播くと、米が播かれた方向にいる観衆は頭を下げて米粒を授かる。

第二座：御祓［おはらい］、すなわち邪気を祓うこと。

一人の神職が供物台の前で拝跪し、供物台から先端に白い護符［御幣］が結び付けられた竹の棹を取り、小さな棹四本と大きな棹一本に分け、大きな棹の前で小さな棹を振りかざす。続いて体を起こして大きな竹の棹を供物台に戻す。再び神前に拝跪し、両手に小さな竹の棹を二本ずつ持ち、胸の前で交差させ拝跪し、体を起こして再度一礼する。その後一周まわって神前で二度振りかざし、両手に持った竹の棹をまた胸の前で交差させる。再び一周し、東側の観衆に向かって一礼し、両手に持った竹の棹を空中で交差させて三回振りかざす。再び一周し、南側の観衆に向かって一礼し、同様に竹の棹を三回振りかざす。再び一周し、西側の観衆に向かって同じ所作を繰り返す。それぞれの方向に向かって竹の棹を振りかざすと、その方向の観衆は頭を下げ、神のご加護を得て邪気が祓われることを祈る。最後に神職が両手の竹の棹を交差させ、神前に戻り一礼する。

神職は供物台にある二本の酒瓶の蓋をあけ、うち一本を取る。手に鈴を持ちゆっくりとした足取りで煮えたぎる湯に向かって進む。湯の前に来ると、先ほどの小さな竹の棹のうちの二本を取り出して湯の上で振りかざし、竹の棹をしまう。続いてまた二本の竹の棹を取り出し一本ずつ湯釜の両脇に挿す。それから釜に酒を少し注ぎ、続けて釜の両脇に挿した竹の棹にも酒を少し注ぐ。続いて湯釜の前で鈴を鳴らす所作をし、再度右手で鈴を鳴ら

◉写真５　神楽の上演　第八座：剣舞１

◉写真６　神楽の上演　第八座：剣舞２

し、左手には酒瓶と残りの二本の竹の棹を持って神前に戻り、これらを供物台に戻し拝跪して退場する。

第三座：御幣招［ごへいまねき］、すなわち神をお招きすること。一人の神職が供物台の前で例によってまず拝跪する。続いて左手に大きな竹の棹を、右手に鈴を持ち四方に向かって順番に舞い、それを繰り返す。神前に戻ると両手に鈴と竹の棹を持ち神前で舞を行う。続いてひざまずいて神前以外の三方向に向かって順番に舞い、観衆に神の降臨を告げる。舞が行われる方向の観衆は神のお告げを拝聴するために頭を下げなければならない。最後に神職が大きな竹の棹と鈴を供物台に戻し、拝跪して退場する。

第四座：御湯［湯上（ゆあげ）］。一人の神職が例のごとく先に供物台の前で拝跪してから、左手には箒状に束ねられた竹の葉［笹、湯たぶさ］、右手には鈴を持って一周舞う。その後ゆっくりとした足取りで湯に向かい、竹の葉を湯に浸し、これを四回繰り返す。竹の葉を取り出すと、供物堂［神殿］に入りお供えする。最後に右手に鈴を持って供物台の前に戻り拝跪して退場する。

ここで前段は終了し、神職たちが休憩を取る。傍らにいる楽隊が演奏を始める。休憩の間、演奏が行われると同時に、保存会の人達が神前にお供えされていた米と酒を観衆に配る。これは神人共楽のひと時である。

後段：

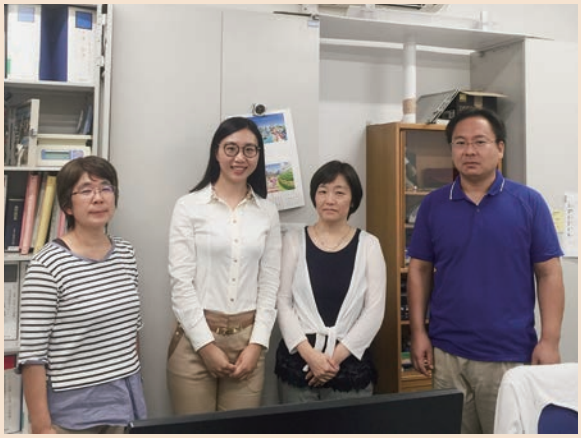
第五座：掻湯［かきゆ］。一人の神職が例のごとく先に供物台の前で拝跪し、左手に大きな竹の棹、右手に鈴を持ち、東・南・西・北の四方向に向かって順番に舞を繰り返す。舞が終わると、神前で一礼し、続けて湯に向かう。湯釜の前で所定の礼拝を行う。その後竹の棹で湯釜の湯を三回すくい、続けて両手で竹の棹を持って湯を時計回りにかき混ぜる。それが終わると再び湯釜に所定の礼拝をして中央の場所に戻り、手にはやはり竹の棹と鈴を持って一周舞う。最後に供物台の前に戻り拝跪して退場する。

第六座：笹の舞。笹とは竹の葉のことである。一人の神職がまず供物台の前で拝跪し、左手には鈴、右手には箒状に束ねられた竹の葉（供物堂に供えられていたものが、お供えの時間が終わり、神職により供物堂から持ち出され供物台へと置かれている）を持ち、東・南・西・北の四方向に向かって舞い、一周する。舞が終わると神前に一礼し、湯に向かう。神職が湯釜の前で所定の礼拝をし、それから竹の葉を湯の中に浸し、これを四回繰り返す。続けて、竹の葉を手で握り、竹の葉についた湯を四方周囲の観衆に順番に散らし掛ける。観衆は頭を下げて禊ぎを受ける。このしぶきを受けると神のご加護があると考えられている。湯を掛け終わると、神職は再び竹の葉と鈴を持って舞を行う。最後に供物台の前に戻り拝跪して退場する。

第七座：弓立［射祓、弓祓（いはらい）］。一人の神職が供物台から装束（紫、橙、白の三色からなり、文様飾りのある装束）を取り出し身に着け、再度拝跪する。装束を身に着けた神職には神が降臨し、神を代表して神事を執り行うことを意味する。次に、神職は神前に供えられた弓と五本の矢を取り、左手を使い扇で弓と矢を支え持ち、右手には鈴を持って周りながら舞う。供物台の前に戻ると扇を置き、矢を一本取り出し弓につがえ、もう一本の矢を弓の弦と垂直になるように弓の前に横につがえる。残りの矢は首の後ろに挿しておく。神職が弓矢を持ち、周囲の観衆に向かって弓を射る。これは悪霊を退散させることを意味し、矢を授かった観衆は神のご加護を受け災いを祓うことができると考えられている。最後に神職は最後の一本の矢を弓につがえ、神前に向かって矢を射る姿勢を取るが神前には悪霊はいないと考えられているため矢を放つことなく終える。

第八座：剣舞［けんまい］。装束をまとい、お面をつけた二人の神職がそれぞれ天狗と山の神を演じる。天狗

内田青蔵先生、佐野賢治先生と記念撮影



非文字資料研究センター事務スタッフと記念撮影

が先に登場し、右手に剣を持ち、神前に立ち一礼する。その様子は厳粛で緊張感にあふれている。時々剣を置くと四方を調べ見て、右手の人差し指と中指で空中に「護身・除災」といった意味の字を書く。また剣を持つと、様々な方向に剣を刺し、悪霊を退治する。天狗の舞の途中から山の神が登場する。山の神の動きは滑稽で観衆を笑わせ、天狗による悪霊祓いの厳粛で緊張した雰囲気を和らげてくれる。山の神は手にしゃもじを持ち、天狗をまねて四方を調べ見たり、剣舞や悪霊退治をするが、おどけた仕草で周囲の観衆をたびたび笑わせる。邪気を清め終えると、天狗は供物台にある餅を周囲の観衆に播き、山の神も天狗の真似をしつつ観衆をからかう仕草で餅を播く。天狗と山の神が民衆に餅を播くことで、再び神人共楽の時を迎えるのである。天狗は神前に一礼し先に退場するが、山の神は残って観衆を楽しませ続ける。こうして神楽は終了する。

おわりに

鎌倉神楽には長い歴史がある。本文は山崎北野神社での実地調査を元に、山崎北野神社の鎌倉神楽についての初歩的な研究・視察を通じて、山崎北野神社の概要、鎌倉神楽の上演の来歴、山崎北野神社の鎌倉神楽で上演される場面や流れについてまとめたものである。

鎌倉神楽は悪霊を追い払い、福を招き入れるためのものであり、おおむね天狗のような獰猛な姿で登場する。

中国の儺（ナ：追儺、鬼やらい）祭でも、獰猛な姿によって目に見えない邪鬼を追い払う鬼神が多く登場する。開山、鐘馗（しょうき）、大神、将軍、雷神などがその役目にあたる。勿論、さらに専門的な研究を深める必要がある問題もあろう。例えば鎌倉神楽と中国の儺戯の比較を行い、日本と中国が結び付く点や合致する点を深く探求することも必要である。また、日本の鎌倉神楽における儀式・鬼神の姿・音楽・舞踊・面と、中国の儺戯における儀式・神・音楽・戯曲・面などにはどれも共通点があり、それらを分類して個別に比較研究することも、中日間の鬼神研究に新たな道を切り開くものとなるかもしれない。

山崎北野神社的镰仓神乐表演

华东师范大学　黄亚欣

1. 山崎北野神社概况

距大船站西南方向约 1.5 公里有一座山，该山有山神名曰山崎天神。北野神社是该山上的一个神社，规模较小，从山脚下到山上的北野神社需要登上 200 多个石阶。该山镇守神虽为山崎天神，但平日里神社祭祀时祭的是菅原道真与牛头天王，祭祀时会表演镰仓神乐。

2. 镰仓神乐表演的来历

镰仓神乐有 800 多年的历史，以镰仓为中心，藤泽、横须贺、三浦、叶山、横滨南部的神社都与此神乐相关。与

普通的神乐不同，镰仓神乐不是一般的民间神乐，而是一种神职神乐，必须由神社的神职人员参与举办。比起普通神乐，镰仓神乐的特色不仅仅在于故事性强，而更注重使参与祭祀的民众在经过祭祀仪式的洗礼之后心灵得到净化。

比较全的镰仓神乐一般有 8 座（即 8 个流程），如今 8 座的神乐越来越少，12 座的较为多见。

3. 山崎北野神社镰仓神乐的表演场景

本文所记录的是 2016 年 9 月 25 日山崎北野神社镰仓神乐的表演。相对于鹤岗八幡宫等大型神社的镰仓神乐表演而言，山崎北野神社的神乐表演算是规模比较小的，但表演流程保存比较完整。目前，山崎北野神社的镰仓神乐表演由山崎保存会负责，定期举行。

神社中间有一块围住的方形场地，是神乐表演的中心场所。表演场地用红、黄、白、绿、蓝五色剪纸做成的丝带状的装饰品围住，外形似山的形状，故名“山饰”。表演场地中间有一个供奉台，供奉台上摆有两瓶酒、两盘年糕、米粒若干、大竹仗 1 根、小竹仗 4 根、神弓 1 把、神箭 5 支、竹叶扫帚 1 把、铃 1 只、扇子 1 把、剑 1 把、木饭勺 1 把、神衣 2 件、天狗面具 1 个、山神面具 1 个。

表演场地一侧有神乐表演前负责奏乐的乐队，一面太鼓，两面小鼓，三支笛子，一面锣，演奏者多为青少年。乐队旁边有人负责烧祭祀用的神汤。

4. 山崎北野神社镰仓神乐的表演流程

神乐表演分前段和后段各 4 个流程。前段以净化驱邪、招待神灵为主，后段则以福泽民众为主。

神乐表演开始，4 位神职人员就坐，进行表演开始前的例行祭拜：先手持令牌，朝灵前一拜，拍两下手，再拿出令牌一拜，再拍两下手，而后再拿出令牌一拜。其中一位神职人员出列，坐在主持席主持表演。表演过程中，一般由 1~2 位神职人员表演，其余的 2~3 位神职人员奏乐，乐器一般用太鼓、小鼓和笛子。

前段：

第一座：初能。一位神职人员先在供奉台前跪拜（通常是先一拜，再拍两下手，然后拜一拜，再拍两下手，再一拜）。表演开始，神职人员拿出扇子，并从供奉台上抓一把米放在扇面上。此时，剩余的三位神职人员负责奏乐，一人敲小鼓、一人敲太鼓、一人奏笛子。在前面表演的神职人员右手摇铃，左手持扇子舞蹈。最后将扇面上的米粒向东、西、南、北四个方向撒，神职人员撒米粒的时候，被撒的那个方向的民众要低下头接受米粒，因为这些米粒代表着神的庇佑。

第二座：御祓，即驱邪。

一位神职人员先在供奉台前行跪拜礼，然后从供奉台上取出顶端绑着白色神符的竹仗，将 4 根小竹仗与大竹仗分离，并将小竹仗在大竹仗前挥舞。接着起身，仍将大竹仗放回供奉台。又在神前跪下，左右手各持两根小竹仗，在胸前交叉，跪拜，起身后再一拜。而后，转一圈，向着神前挥舞两下，仍将左右手的竹仗交叉于胸前。再转圈，对着东面的民众一拜，既而将左右手的竹仗在空中交叉挥舞三次；再转圈，对着南面的民众一拜，同样地挥舞竹仗三次；再转圈，对西面的民众也做同样的动作。每对一个方向挥舞，该方向的民众就要低下头，以祈求得到神的相助，得以驱除邪恶。最后，神职人员左右手竹仗交叉，回到神前，再一拜。

神职人员拔掉供奉台上两瓶酒的塞子，并拿出其中一瓶，手持铃，小步往烧热的神汤那里走去。来到热汤前，取出其中两根小竹仗，在热汤上方挥舞，而后又将竹仗收回。继而又先后取出两根小竹仗，分别插在汤锅两侧。再向锅中倒入少许酒，接着又向插在汤锅旁的两根小竹仗倒少许酒。之后，在汤锅前摇铃作法。最后，右手摇铃，左手持酒瓶和剩余的两根小竹仗回到神前，将这些东西放回供奉台，并跪拜退场。

第三座：御幣招，即请神。一位神职人员在供奉台前，照例先跪拜。接着左手持大竹仗，右手持铃，依次对着四个方向舞蹈，并不断重复。而后回到神前，双手持铃和竹仗，在神前挥舞；继而，又跪着依次对着其他三个方向挥舞，意思是告诉众人神已经请到了。对着一个方向挥舞的时候，该方向的民众必须低下头，表示聆听神的指示。最后，神职人员将大竹仗和铃放回供奉台，跪拜退场。

第四座：御汤。一位神职人员照例先在供奉台前跪拜，接着左手拿扎成扫帚形状的竹叶，右手持铃，舞蹈一圈。然后，小步往神汤那里走去。将竹叶浸入汤中，反复共 4 次。而后取出，入供奉堂内供奉起来。最后右手持铃返回供奉台前，跪拜退场。

至此，前段结束，神职人员休息，一侧的乐队开始奏乐。休息时一边奏乐，保存会的工作人员一边将早先在神前供奉的米酒分发给周围民众，这实际上也是一个神、人共乐的阶段。

后段：

第五座：搔汤。一位神职人员依例先在供奉台前跪拜，而后左手持大竹仗，右手持铃，依次对东、南、西、北四个方向舞蹈，并不断重复。舞蹈结束后，对神一拜，继而向神汤走去。来到汤锅前，先祭拜作法一番。然后拿竹仗在汤锅中撩三下水，接着双手持竹仗在汤锅中顺时针搅。又对着汤锅作法，并回到中心场地，依旧持竹仗和铃舞蹈一圈。最后回到供奉台前，跪拜退场。

第六座：笹之舞。笹，即竹叶。一位神职人员先在供奉台前跪拜，然后左手持铃，右手拿着扎成扫帚形状的竹叶（此时竹叶的供奉时间已到，已由神职人员从供奉堂内取出，置于供奉台上），分别朝东、南、西、北四个方向舞蹈，转圈。舞蹈结束后回神前一拜，往神汤走去。神职人员先在汤锅前作法一番，然后将竹叶浸入汤中，反复 4

次；接着手握竹叶，竹叶上的汤水依次向四周的民众挥洒，民众都要低下头接受洗礼，被洒到水的民众被认为会受到神灵庇佑。洒完水之后，神职人员再拿着竹叶和铃继续舞蹈。最后回到供奉台前，跪拜退场。

第七座：弓立。一位神职人员先从供奉台上拿出神衣（神衣由紫、橘、白三色组成，上有纹饰）穿上，再行跪拜礼，穿上神衣的神职人员意味着此刻已被神附身，可全权代表神。此时，神职人员拿出供奉在神前的 5 支神箭和 1 把神弓，左手用扇子托着神弓、神箭，右手持铃，转圈舞蹈。然后回到供奉台前，放下扇子，取出 1 支神箭在弓上架好，另一支神箭水平架在弓前，与先前那支箭及弓弦都垂直。其余的箭插在颈后。神职人员持神弓、神箭向周围的民众射去，意为驱除周围的恶灵，接到神箭的民众被认为受到神灵保佑，能除去厄运。最后一支箭神职人员仅将箭放在弦上，朝神前的方向摆一摆射箭的架势，但并不射出，因为神前通常认为是没有恶灵的。

第八座：剑舞。两位神职人员分别穿上神衣、戴上假面，一个扮演天狗、一个扮演山神。天狗先出场，右手持剑，站立在神前一拜，表现得严肃、紧张；时而放下剑，四处查看，右手食指、中指并拢在空中书写“护身除厄”之类的字；又时而拿起剑，换着不同的方向向前方刺去，代表斩杀恶灵的意思。天狗表演一段时间之后，山神上场。山神表现得滑稽、引人发笑，以缓解天狗除恶带来的严肃、紧张的气氛。山神手拿木饭勺，模仿天狗的样子四处查看、舞剑、斩杀恶灵，诙谐的动作不时逗得周围的民众大笑。除恶环节完成之后，天狗将放在供奉台上的年糕团撒给四周的民众，于是山神也模仿起天狗的样子给四周的民众撒年糕团，还拿年糕团不断逗弄民众。天狗与山神一起向民众撒年糕实际上是又一次达到了神、人共乐的阶段。最后，天狗在神前一拜后先行下场，山神仍留在台上娱乐民众。神乐表演至此，进入尾声。

结语

镰仓神乐有着较长的历史，本文以实地考察为依据，以山崎北野神社为例，对山崎北野神社的镰仓神乐进行了初步的调研和考察，对山崎北野神社的概况、镰仓神乐表演的来历、山崎北野神社镰仓神乐表演的场景及流程进行了描述。镰仓神乐以驱逐恶灵，招福迎祥为出发点，常以狰狞的形象登场，如天狗。在中国的傩祭中，也有许多依恃狰狞形象驱逐无形恶鬼的鬼神登场的，开山、钟馗、大神、将军、雷神等就是这样的角色。当然，有些问题还需要在专题研究中深化，比如将镰仓神乐与中国傩戏进行比较，从而深入探寻日本与中国的连接点与契合点。日本镰仓神乐的中的仪式、鬼神形象、音乐、舞蹈、面具等与中国的傩戏中的傩仪、傩神、傩乐、傩戏、傩面具等等都存在着共通之处，如能将这些内容分门别类地进行专题比较研究，或许能够为中日鬼神研究开拓出一条新路。